

スーパーL資金の実質無利子化措置に関するアンケート調査結果の概要

平成29年9月25日
(公財) 農林水産長期金融協会

〔調査の趣旨〕

認定農業者の方々が新たに規模拡大や農産物輸出等の攻めの経営展開に取り組むことを支援するため、現在、スーパーL資金の実質無利子化措置が講じられているところですが、国において今後の実質無利子化措置などの金利負担軽減措置を検討する際の参考資料として、本措置の利用目的・効果に関する状況を把握する必要があります。

そこでこの度、(公財) 農林水産長期金融協会は、この実質無利子化措置付き融資をご利用された認定農業者の方々に対しまして、設備投資のねらい、設備投資における実質無利子化措置の効果等について、アンケート調査を実施いたしました。調査結果の概要は以下のとおりです。

〔調査結果の概要〕

○調査時期 平成29年5～6月

○調査対象 スーパーL資金（TPP対策）の利子助成先 1,647先

（担い手経営発展支援金融対策事業の開始以来、平成29年4月末までの利子助成金交付決定先）

○回答者数 1,068先（回収率 64.8%）

○営農類型別回答者数

稲作	畑作	野菜	茶	果樹	施設野菜	施設花き	きのこ	酪農	肉用牛
252	65	89	13	60	90	17	5	152	168
養豚	採卵鶏	ブロイラー	その他	計					
82	34	29	12	1,068					

○地域別回答者数

北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中四国	九州
224	111	162	56	54	52	173	236

(設問内容)

1 今回の設備投資のねらい

今回の設備投資（スーパーL資金の借入れ）のねらいはどのようなことですか。主なねらい1つに◎、副次的なねらい（該当するもの全て）に○をつけて下さい。

1 輸出事業への進出・拡大	2 加工事業への進出・拡大
3 販売事業への進出・拡大（消費者への直販、食品事業者との直接取引）	4 経営規模の拡大、生産の増加
5 高収益な作物・栽培体系の導入	6 新品種・新技術の導入
7 ブランド化など高品質化、高付加価値化	8 作物の追加又は他作物への転換
9 低コスト化（作業の効率化、省エネ化等）	10 その他（具体的に記述願います）

2 今回の設備投資に当たり、実質無利子化措置を利用された理由

今回の設備投資（スーパーL資金の借入れ）に当たり、実質無利子化措置を利用されたのはどのような理由ですか。該当するもの全てに○をつけて下さい。

1 貸付当初5年間は金利負担がなく負担軽減、経営収支改善に寄与すると考えたため	2 投資意欲や経営改善意欲が喚起されたため
3 新たな投資計画を立てることができると考えたため	4 もっと先で投資を計画していたが、今回の措置により、計画の前倒しができると考えたため
5 投資規模の拡大ができると考えたため	6 実質無利子化措置の面よりも、そもそもスーパーL資金の使い勝手がよいため
7 わからない	8 その他（具体的に記述願います）

3 今後の経営目標・方針

今後の中期的な経営目標・方針について検討されていることはどのようなことですか。3つ選び、第1の目標に◎、第2の目標に○、第3の目標に△をつけて下さい。

1 輸出事業への進出・拡大	2 加工事業への進出・拡大
3 販売事業への進出・拡大（消費者への直販、食品事業者との直接取引）	4 経営規模の拡大、生産の増加
5 高収益な作物・栽培体系の導入	6 新品種・新技術の導入
7 ブランド化など高品質化、高付加価値化	8 作物の追加又は他作物への転換
9 低コスト化（作業の効率化、省エネ化等）	10 経営管理の向上
11 現状維持	12 その他（具体的に記述願います）

4 これまでの設備投資における実質無利子化措置の効果

当協会は、平成19年度以降、スーパーL資金等公庫資金や農業近代化資金を対象に実質無利子化措置を講じてきており、当該措置の利用実績は平成27年度までの累計で約6万件、1兆2,500億円に上ります。

そこで、これまでの設備投資（スーパーL資金等その他の資金の借入れ）の中で、実質無利子化措置をご利用いただいた方にお尋ねしますが、本措置の効果についてどのようにお考えですか。該当するもの全てに○をつけて下さい。

1 金利負担がなく、負担軽減、経営収支改善に寄与した	2 投資意欲や経営改善意欲が喚起された
3 当初の計画より、積極的な設備投資を進めることができた	4 投資計画の前倒しを決断することができた
5 投資規模の拡大を決断することができた	6 新しい事業にチャレンジするきっかけになった
7 認定農業者への支援措置の一つとして有効な制度であると認識	8 低金利水準にあるため、実質無利子化措置のメリットが感じられなかった
9 わからない	10 その他（具体的に記述願います）

上記にご記入いただいた方で、農業経営を展開するに当たって、実質無利子化措置が具体的にどのようなことに役立ちましたか、ご記入いただける方は簡潔にお願いします。

5 意見・要望

当協会の利子助成金交付事業や関連する事業についてご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

○調査結果のポイント

1 今回の設備投資のねらい

今回の設備投資（スーパーL資金の借入れ）のねらいについて聞いたところ、農業全体では「経営規模の拡大、生産の増加」が82%と圧倒的に多く、次いで「低コスト化」45%、「ブランド化等高品質化、高付加価値化」16%、「販売事業への進出・拡大」、「新品种・新技術の導入」各13%の順となっている。

営農類型別においては、農業全体と概ね同様の傾向を示しているものの、特に①茶では「輸出事業への進出・拡大」、「高収益な作物・栽培体系の導入」各31%、②果樹では「ブランド化等高品質化、高付加価値化」32%、「加工事業への進出・拡大」、「高収益な作物・栽培体系の導入」各30%、③施設野菜では「高収益な作物・栽培体系の導入」32%と他の営農類型と比べ高率となっており、設備投資のねらいにこれら営農類型独自の特色が見受けられる。

2 今回の設備投資に当たり、実質無利子化措置を利用された理由

今回の設備投資（スーパーL資金の借入れ）に当たり、実質無利子化措置を利用された理由について聞いたところ、農業全体では「貸付当初5年間は金利負担がなく負担軽減、経営収支改善に寄与すると考えたため」が82%と圧倒的に多く、次いで「投資規模の拡大ができると考えたため」28%、「投資意欲や経営改善意欲が喚起されたため」25%、「新たな投資計画を立てることができると考えたため」23%の順となっている。

このように、実質無利子化措置は、金利負担の軽減及び設備投資の拡大の両面において、担い手の経営改善意欲や投資意欲の喚起といった動機付けの役割を發揮している。

営農類型別においては、農業全体と概ね同様の傾向を示しているものの、①「投資規模の拡大ができると考えたため」が施設花きで47%、ブロイラー45%、養豚40%、②「投資意欲や経営改善意欲が喚起されたため」がブロイラー38%、野菜32%、③「新たな投資計画を立てることができると考えたため」が養豚33%、ブロイラー31%と他の営農類型と比べ高率となっており、これら営農類型では設備投資の拡大や新規投資に意欲的である。

3 今後の経営目標・方針

今後の中期的な経営目標・方針については、回答件数が上記1に比べ1.4倍と大幅に増加（2,133→3,053件）し、経営の将来像への関心が高まっている。その中で、「経営規模の拡大、生産の増加」が78%と圧倒的に多く、次いで「低コスト化」57%、「経営管理の向上」38%、「ブランド化等高品質化、高付加価値化」26%の順となっており、特に「経営管理の向上」が上位にあるのは経営規模拡大（設備投資拡大）を踏まえ、経営マネジメントの必要性が認識されていることを表している。また、上記1との増減率をみると、とりわけ、「低コスト化」で12ポイント（45→57%）、「ブランド化等高品質化、高付加価値化」で10ポイント（16→26%）、「販売事業への進出・拡大」で9ポイント（13→22%）各々上昇している。

営農類型別においては、特に①茶では「輸出事業への進出・拡大」46%（上記1との増減率・15ポイント上昇）、「販売事業への進出・拡大」31%（同16ポイント上昇）、②果樹では「ブランド化等高品質化、高付加価値化」47%（同15ポイント上昇）、③施設花きでは「ブランド化等高品質化、高付加価値化」47%（同23ポイント上昇）となっており、これら営農類型では現在の経営目標を一層進化・発展させる経営姿勢が見受けられる。

4 これまでの設備投資における実質無利子化措置の効果

これまでの設備投資（スーパーL資金の借入れ）における実質無利子化措置の効果については、農業全体では「金利負担がなく負担軽減、経営収支改善に寄与した」が83%と圧倒的に多く、次いで「認定農業者への支援措置の一つとして有効な制度であると認識」57%、「投資意欲や経営改善意欲が喚起された」（以下「投資意欲等の喚起」）40%、「当初の計画より積極的な設備投資を進めることができた」（同「積極的な設備投資」）38%、「投資規模の拡大を決断することができた」（同「投資規模の拡大」）37%の順となっており、一方で「低金利水準にあるため実質無利子化措置のメリットが感じられなかった」といった否定的意見は僅少（3%）となっている。

また、「投資意欲等の喚起」、「投資規模の拡大」の回答は上記2に比べ大幅に増加しており

(25～28%→37～40%)、「新しい事業にチャレンジするきっかけになった」や「投資計画の前倒しを決断することができた」も19～20%の回答があった。借入前の段階では負担軽減というマイナスの除去に関心があったものが、借入後は経営の発展というプラス面に視点が移っているものとみられる。

一方、営農類型別では、前向きな意見は、とりわけ施設花き、肉用牛及び養豚の各営農類型で多くみられ、①「投資意欲等の喚起」が施設花き53%、肉用牛49%、②「積極的な設備投資」が養豚53%、採卵鶏47%、③「投資規模の拡大」が養豚49%、施設花き47%となっている。

4-2 実質無利子化措置の具体的な効果

「実質無利子化措置の具体的な効果」の記述は317件と、回答者数(1,030名)の31%を数える。記述内容をみると、とりわけ、「投資規模の拡大」や「新規事業へのチャレンジ」、「投資計画の前倒し」ができたとする意見が多くなっており、実質無利子化措置が担い手の投資意欲の喚起を促進し、ひいては経営規模の拡大や新規事業の開拓等経営発展に結実できていることを示している。以下、例示的に列挙する。

- 経営を続けていくにあたり、スーパーL資金の無利子化は大きな力になっている。国の助力に感謝している。大きな投資に臆することなく決断することができた。(北海道、酪農)
- 作業効率を向上させるための大型農機購入に使わせていただき、搾乳だけでなく和牛生産の事業を始めることができた。経営収支が改善され、さらに新規事業にも展開することができた。(北海道、酪農)
- 従来の農業のイノベーションを行い、産地構造改革に大いに役立った。新しい産地形成と農業生産法人の将来の方向性を見い出すことに大変役立った。(青森、果樹)
- 東日本大震災の時には、経営的にも、精神的にも大きな不安に圧迫されたが、無利子の公庫資金のお陰で乗り切ることができた。また、今回、子供への事業継承の際にも、数年後に確実に更新すべき設備を前倒しで更新できた。その成果はすでに現れてきている。(岩手、プロイラー)
- 阪神・淡路大震災で大被害を受け、規模拡大をするにつれ距離が離れ、大市場に近い山梨県北杜市に進出することができた。(山梨、施設野菜)
- 設備投資のため調達を行い続けると、年間の金利負担は相当な額になる。低金利の時代とはいえ、投資マインドが低下する原因となる。無利子であると有利なうちに投資に踏み切れるので、成長過程の企業にとっては有効な制度であると思う。(三重、稲作)
- ゼロから発足した当法人にとって、正に天の恵みのようだった。本当に有り難く思っている。確実な返済を目途に頑張りたいと思う。(鳥取、稲作)
- 新規事業として創業間もなく、あらゆる面において設備投資が必要となっていた。経営上、金利の負担は少しでも和らげたく、その費用も設備にまわせると考えると、経営上の大きなメリットとして考えられる。(徳島、野菜)
- 加工業務用の野菜を中心とした経営を行っている中、実需者からは契約数量の増加を求められ、拡大を図る上では施設整備は欠かせない状況にあった。今後、1～2年のうちに更なる施設整備計画の予定もできるようになった。(鹿児島、野菜)

5 意見・要望

「意見・要望」の記述は253件を数える。これら要望事項のうち、「実質無利子化措置の継続実施」が87件と最も多く、同措置への期待の大きさがうかがえる。次いで、「利子助成期間の延長」が23件、「利子助成対象者・要件等の拡大」、「貸付手続の簡素化・短縮化」各16件、「利子助成事業の普及推進」3件などとなっている。

<まとめ>

借入動機としては、実質無利子化措置の活用により金利負担を軽減しつつ経営規模の拡大を図ることに主眼があるが、借入後は設備投資の拡大による経営発展に重点が移り、そのための具体的な取組方策に関心が高まっていることがうかがえる。

その意味で、実質無利子化措置は、担い手が経営を発展させるための契機として有効に機能しており、担い手自身も有効な支援措置と捉えている。

調査結果

1 今回の設備投資のねらい（主なねらい：◎、副次的なねらい（該当するもの全て）：○）

回答者総数：1,068

区分	回答者数	回答件数計	輸出事業への進出・拡大	加工事業への進出・拡大	販売事業への進出・拡大	経営規模の拡大、生産増加	高収益作物・栽培体系導入	新品種・新技術の導入	ブランド化等 高品質化・高付加価値化	作物追加、他作物への転換	低コスト化（作業効率化、省エネ化等）	その他
農業全体	1,064	2,133	29	76	134	870	132	138	167	44	484	59
うち◎	-	580	2	12	21	408	19	5	20	4	89	0
○	-	1,553	27	64	113	462	113	133	147	40	395	59

【営農類型別回答件数】

稲作	250	516	3	17	38	202	25	34	30	17	136	14
畑作	65	134	1	5	6	56	13	11	7	7	27	1
野菜	88	197	4	13	16	73	24	10	15	6	35	1
茶	13	28	4	2	2	9	4	1	2	1	1	2
果樹	60	151	3	18	13	43	18	14	19	4	16	3
施設野菜	90	226	3	9	18	77	29	18	22	5	40	5
施設花き	17	40	2	1	2	14	4	3	4	0	9	1
きのこ	5	8	0	0	0	4	0	0	1	0	3	0
酪農	152	260	2	4	7	129	4	20	12	1	72	9
肉用牛	167	277	4	2	15	139	8	11	30	2	54	12
養豚	82	158	1	1	7	66	0	11	14	0	51	7
採卵鶏	34	71	2	1	5	26	1	2	9	0	23	2
ブロイラー	29	45	0	1	2	24	1	1	1	1	12	2
その他	12	22	0	2	3	8	1	2	1	0	5	0

【営農類型別回答件数構成割合】（回答件数/回答者数）

農業全体	-	-	3%	7%	13%	82%	12%	13%	16%	4%	45%	6%
稲作	23%	-	1%	7%	15%	81%	10%	14%	12%	7%	54%	6%
畑作	6%	-	2%	8%	9%	86%	20%	17%	11%	11%	42%	2%
野菜	8%	-	5%	15%	18%	83%	27%	11%	17%	7%	40%	1%
茶	1%	-	31%	15%	15%	69%	31%	8%	15%	8%	8%	15%
果樹	6%	-	5%	30%	22%	72%	30%	23%	32%	7%	27%	5%
施設野菜	8%	-	3%	10%	20%	86%	32%	20%	24%	6%	44%	6%
施設花き	2%	-	12%	6%	12%	82%	24%	18%	24%	0%	53%	6%
きのこ	0%	-	0%	0%	0%	80%	0%	0%	20%	0%	60%	0%
酪農	14%	-	1%	3%	5%	85%	3%	13%	8%	1%	47%	6%
肉用牛	16%	-	2%	1%	9%	83%	5%	7%	18%	1%	32%	7%
養豚	8%	-	1%	1%	9%	80%	0%	13%	17%	0%	62%	9%
採卵鶏	3%	-	6%	3%	15%	76%	3%	6%	26%	0%	68%	6%
ブロイラー	3%	-	0%	3%	7%	83%	3%	3%	3%	3%	41%	7%
その他	1%	-	0%	17%	25%	67%	8%	17%	8%	0%	42%	0%

2 今回の設備投資に当たり、実質無利子化措置を利用された理由（該当するもの全てに○）

区分	回答者数	回答件数計	当初5年間金利負担なく、負担軽減等に寄与と考えた	投資意欲や経営改善意欲が喚起	新たな投資計画を立てることができる	もっと先で投資計画していたが、前倒しができると思った	投資規模の拡大ができると考えた	そもそもスーパーLの使い勝手がよい	わからない	その他
農業全体	1,065	1,977	873	261	240	109	295	179	5	15

【営農類型別回答件数】

稲作	252	437	220	42	40	33	54	44	1	3
畑作	65	118	56	18	14	8	14	7	0	1
野菜	89	173	71	28	23	7	24	18	1	1
茶	12	19	11	1	3	0	3	1	0	0
果樹	60	122	53	17	16	6	16	12	0	2
施設野菜	90	155	72	18	18	9	21	15	1	1
施設花き	17	33	13	4	5	1	8	2	0	0
きのこ	5	11	5	2	2	1	1	0	0	0
酪農	152	280	118	42	34	13	44	26	2	1
肉用牛	166	304	126	47	37	12	52	26	0	4
養豚	82	177	64	21	27	11	33	19	0	2
採卵鶏	34	63	30	8	8	3	8	6	0	0
ブロイラー	29	63	23	11	9	4	13	3	0	0
その他	12	22	11	2	4	1	4	0	0	0

【営農類型別回答件数構成割合】(回答件数/回答者数)

農業全体	-	-	82%	25%	23%	10%	28%	17%	0%	1%
稲作	24%	-	87%	17%	16%	13%	21%	17%	0%	1%
畑作	6%	-	86%	28%	22%	12%	22%	11%	0%	2%
野菜	8%	-	81%	32%	26%	8%	27%	20%	1%	1%
茶	1%	-	85%	8%	23%	0%	23%	8%	0%	0%
果樹	6%	-	88%	28%	27%	10%	27%	20%	0%	3%
施設野菜	8%	-	80%	20%	20%	10%	23%	17%	1%	1%
施設花き	2%	-	76%	24%	29%	6%	47%	12%	0%	0%
きのこ	0%	-	100%	40%	40%	20%	20%	0%	0%	0%
酪農	14%	-	78%	28%	22%	9%	29%	17%	1%	1%
肉用牛	16%	-	76%	28%	22%	7%	31%	16%	0%	2%
養豚	8%	-	78%	26%	33%	13%	40%	23%	0%	2%
採卵鶏	3%	-	88%	24%	24%	9%	24%	18%	0%	0%
ブロイラー	3%	-	79%	38%	31%	14%	45%	10%	0%	0%
その他	1%	-	92%	17%	33%	8%	33%	0%	0%	0%

3 今後の経営目標・方針（3つ選択。第1目標:◎、第2目標:○、第3目標:△）

区分	回答者数	回答件数計	輸出事業への進出・拡大	加工事業への進出・拡大	販売事業への進出・拡大	経営規模の拡大、生産増加	高収益作物・栽培体系導入	新品種・新技術の導入	ブランド化等 高品質化・高付加価値化	作物追加、他作物への転換	低コスト化 (作業効率化、省エネ化等)	経営管理の向上	現状維持	その他
農業全体	1,067	3,053	57	118	233	827	160	194	278	72	613	403	74	24
うち◎	-	875	3	19	59	518	32	15	49	4	125	34	17	0
○	-	1,403	27	71	112	258	85	103	151	37	332	204	23	0
△	-	775	27	28	62	51	43	76	78	31	156	165	34	24

【営農類型別回答件数】

稲作	251	726	11	19	76	193	52	51	50	29	152	73	14	6
畑作	65	189	3	9	10	51	16	18	10	13	38	16	4	1
野菜	89	256	6	19	21	68	21	16	18	10	41	29	4	3
茶	13	38	6	2	4	11	3	3	2	0	4	2	0	1
果樹	60	181	7	18	17	39	17	17	28	4	19	14	1	0
施設野菜	90	274	6	16	23	74	31	24	26	9	39	25	1	0
施設花き	17	50	2	1	2	14	4	0	8	1	10	5	2	1
きのこ	5	16	0	1	2	5	1	0	3	0	3	1	0	0
酪農	152	410	1	9	10	121	3	31	15	2	111	91	13	3
肉用牛	168	482	9	9	38	135	9	17	68	3	92	81	19	2
養豚	82	229	3	7	15	64	1	12	29	0	56	32	6	4
採卵鶏	34	97	3	5	10	23	0	3	13	0	26	12	1	1
ブロイラー	29	72	0	1	3	21	0	2	3	1	16	18	6	1
その他	12	33	0	2	2	8	2	0	5	0	6	4	3	1

【営農類型別回答件数構成割合】(回答件数/回答者数)

農業全体	-	-	5%	11%	22%	78%	15%	18%	26%	7%	57%	38%	7%	2%
稲作	24%	-	4%	8%	30%	77%	21%	20%	20%	12%	61%	29%	6%	2%
畑作	6%	-	5%	14%	15%	78%	25%	28%	15%	20%	58%	25%	6%	2%
野菜	8%	-	7%	21%	24%	76%	24%	18%	20%	11%	46%	33%	4%	3%
茶	1%	-	46%	15%	31%	85%	23%	23%	15%	0%	31%	15%	0%	8%
果樹	6%	-	12%	30%	28%	65%	28%	28%	47%	7%	32%	23%	2%	0%
施設野菜	8%	-	7%	18%	26%	82%	34%	27%	29%	10%	43%	28%	1%	0%
施設花き	2%	-	12%	6%	12%	82%	24%	0%	47%	6%	59%	29%	12%	6%
きのこ	0%	-	0%	20%	40%	100%	20%	0%	60%	0%	60%	20%	0%	0%
酪農	14%	-	1%	6%	7%	80%	2%	20%	10%	1%	73%	60%	9%	2%
肉用牛	16%	-	5%	5%	23%	80%	5%	10%	40%	2%	55%	48%	11%	1%
養豚	8%	-	4%	9%	18%	78%	1%	15%	35%	0%	68%	39%	7%	5%
採卵鶏	3%	-	9%	15%	29%	68%	0%	9%	38%	0%	76%	35%	3%	3%
ブロイラー	3%	-	0%	3%	10%	72%	0%	7%	10%	3%	55%	62%	21%	3%
その他	1%	-	0%	17%	17%	67%	17%	0%	42%	0%	50%	33%	25%	8%

4 これまでの設備投資における実質無利子化措置の効果（該当するもの全てに○）

区分	回答者数	回答件数計	金利負担なく、負担軽減等に寄与した	投資意欲や経営改善意欲が喚起された	当初計画より積極的な設備投資ができた	投資計画の前倒しを決定できた	投資規模の拡大を決定できた	新しい事業にチャレンジするきっかけになった	認定農業者への支援措置として有効な制度と認識	低金利水準にあり、実質無利子化のメリットなし	わからない	その他
農業全体	1,030	3,080	857	407	394	196	381	208	592	31	6	8

【営農類型別回答件数】

稲作	244	701	211	74	77	51	74	47	158	5	1	3
畑作	61	175	50	21	24	11	22	6	35	5	1	0
野菜	85	259	64	36	36	15	30	20	54	4	0	0
茶	13	37	12	3	4	1	4	5	7	1	0	0
果樹	60	193	48	20	24	13	23	18	41	4	1	1
施設野菜	85	268	68	39	35	15	37	24	48	1	0	1
施設花き	17	52	15	9	5	2	8	4	9	0	0	0
きのこ	5	16	4	2	4	1	3	0	2	0	0	0
酪農	142	380	115	49	44	27	46	28	64	5	2	0
肉用牛	164	511	137	80	67	25	70	42	82	4	1	3
養豚	79	257	68	36	42	17	39	9	46	0	0	0
採卵鶏	34	105	31	16	16	7	13	2	20	0	0	0
ブロイラー	29	90	23	14	11	9	10	3	18	2	0	0
その他	12	36	11	8	5	2	2	0	8	0	0	0

【営農類型別回答件数構成割合】(回答件数/回答者数)

農業全体		-	83%	40%	38%	19%	37%	20%	57%	3%	1%	1%
稲作	23%	-	86%	30%	32%	21%	30%	19%	65%	2%	0%	1%
畑作	6%	-	82%	34%	39%	18%	36%	10%	57%	8%	2%	0%
野菜	8%	-	75%	42%	42%	18%	35%	24%	64%	5%	0%	0%
茶	1%	-	92%	23%	31%	8%	31%	38%	54%	8%	0%	0%
果樹	6%	-	80%	33%	40%	22%	38%	30%	68%	7%	2%	2%
施設野菜	8%	-	80%	46%	41%	18%	44%	28%	56%	1%	0%	1%
施設花き	2%	-	88%	53%	29%	12%	47%	24%	53%	0%	0%	0%
きのこ	0%	-	80%	40%	80%	20%	60%	0%	40%	0%	0%	0%
酪農	13%	-	81%	35%	31%	19%	32%	20%	45%	4%	1%	0%
肉用牛	15%	-	84%	49%	41%	15%	43%	26%	50%	2%	1%	2%
養豚	7%	-	86%	46%	53%	22%	49%	11%	58%	0%	0%	0%
採卵鶏	3%	-	91%	47%	47%	21%	38%	6%	59%	0%	0%	0%
ブロイラー	3%	-	79%	48%	38%	31%	34%	10%	62%	7%	0%	0%
その他	1%	-	92%	67%	42%	17%	17%	0%	67%	0%	0%	0%